

論文内容の要約

論文名	Effectiveness of Antibacterial Prophylaxis with Non-absorbable Polymyxin B Compared to Levofloxacin after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation (同種造血幹細胞移植後の細菌感染予防としての非吸収性抗菌薬ポリミキシンBのレボフロキサシンと比較しての有効性)
氏名	康 史朗
<p>【背景】細菌感染症は同種造血幹細胞移植における重要な合併症の一つである。同種造血幹細胞移植時の細菌感染予防としてキノロン系抗菌薬の使用がガイドラインでも推奨されており、現在広く用いられている。一方でキノロンの使用が他の抗菌薬に比べて死亡率を改善させるかどうかは十分な検討は行われていない。</p> <p>【対象・方法】2004年から2013年の間に当施設で同種造血幹細胞移植を行った患者のうち、細菌感染予防として非吸収性抗菌薬のポリミキシンB (PB) または吸収性抗菌薬のレボフロキサシン (LVFX) を用いた患者を対象として後方視的コホート研究を行った。</p> <p>【結果】PB 使用群が106名、LVFX 群が140名で、年齢・性別・疾患の種類・疾患リスクに有意な偏りはなかった。後期の移植でLVFX 使用が多かったことを反映して、LVFX 使用群では移植細胞源として臍帯血・HLA 不一致ドナーが多く、GVHD 予防として古典的な短期MTX+カルシニューリン阻害薬以外の方法を多く用いていた。</p> <p>PB・LVFX の2群間で抗菌薬予防失敗(初回の抗菌薬変更で定義)、clinically documented infection、敗血症の頻度に有意差を認めなかった。LVFX に対する耐性菌による敗血症はPB 群で83%、LVFX 群で100%に認められた。また、抗菌薬予防失敗、clinically documented infection、移植後100日までの非再発死亡(NRM day100)の累積発症率を2群で比較したが有意差を認めなかった。また、全生存率についても2群で比較したが有意な差を認めなかった。これらの結果は単変量解析・多変量解析いずれにおいても同様であった。</p> <p>【結論】今回、非吸収性抗菌薬のPBと吸収性抗菌薬のLVFXの間で、移植時細菌感染予防の効果に有意な違いを認めなかった。</p>	